

これまでの取り組み

- 重点的かつ戦略的に取り組むべき事項を「中部圏地震防災基本戦略」としてとりまとめ
- 避難・防御、応急・復旧、復興の各段階について9つの連携課題を抽出し検討
- 総合啓開や広域防災拠点の基本戦略に反映し、災害時の物流ネットワーク、災害廃棄物処理、初動医療等を新たな課題として追加

今後の進め方

- 基本戦略の実施項目のうち、関係機関による調整・協議が必要な項目について、学識者等を含めた分科会形式での検討を実施
- より現実的な被害想定を検証し、被害リスクの抽出とリスクの見える化を行い、リスク回避・除去のためのハード・ソフト方策を具体化・推進

平成29年度の取り組み

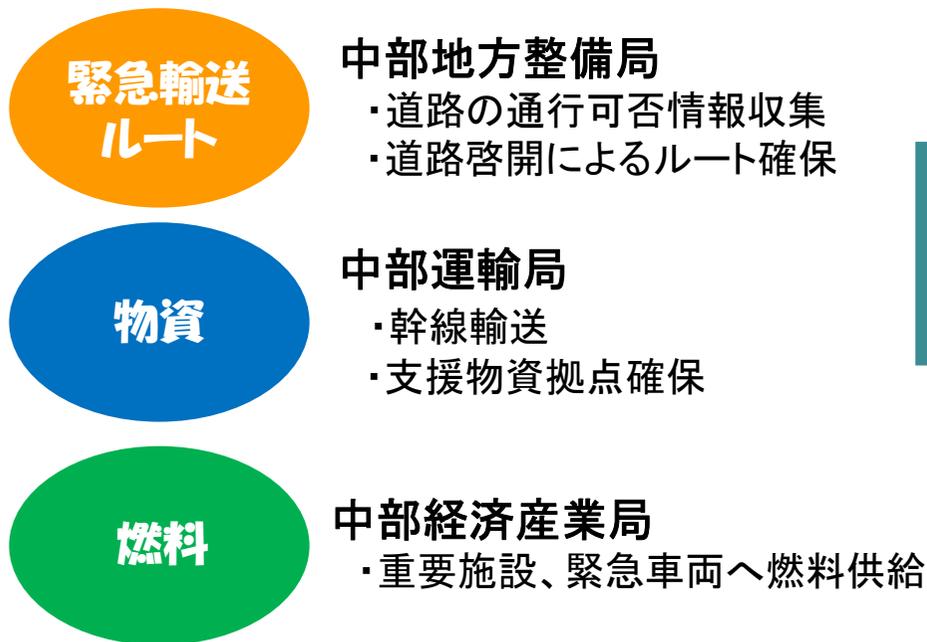
- 基本戦略の実施項目をタイムラインとして整理し、分科会を立ち上げ（中部地方整備局）
- サプライチェーンの機能継続について、応急・復旧期に係るフェーズの検討を進めるため産学官による新たなWGを設置し産業の事業継続力向上プランを策定（中部経済産業局）
- シンクタンク等との連携（中部地方整備局）

これまで各機関が個別に検討してきた基本戦略の実施項目と課題の内、関係機関の相互連携と調整・協議が必要な項目について、学識者等を含めた分科会により効率的かつ的確に検討を推進

<これまでの検討>

各機関それぞれが個別に検討するため、検討途中での情報共有が不十分

【事例】被災地への物資輸送



緊急輸送ルート、物資輸送体制、燃料のいずれか一つでも欠如すれば、被災地への物資輸送が困難

<今後、分科会による検討>

緊密に連携する項目について、関係機関が集まり、必要な調整及び情報共有を図りつつ検討

【事例】被災地への物資輸送



中部地方整備局、中部運輸局、中部経済産業局
+学識者等による分科会で検討

3項目を被災地への物資輸送という一連のシナリオと位置付け、関係機関が集まって検討することで実効性が向上
また、平常時から各機関がお互い顔の見える関係を構築することで発災時の連携も行いやすい

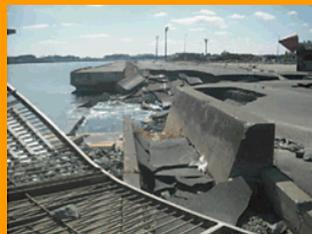
現実的な被害想定検証及びリスクの見える化を行い、リスク回避・除去のためのハード・ソフト方策を具体化・推進

<想定されるリスクの一部>

堤防沈下



破堤



建物倒壊



橋梁段差



津波浸水



火災



液状化



停電



水道破裂



ガレキ



帰宅困難者



負傷者



1. 現実的な被害想定検証

- ・耐震対策等の評価、津波浸水シミュレーション
- ・サプライチェーンなど社会経済への影響

2-1. 潜在的被害リスクの抽出

- ・各地域毎のリスク分析
- ・リスクの抽出、整理

2-2. リスクの見える化

- ・リスクマップにより地域住民、企業、行政、学識者等で情報共有

3-1. リスク回避・除去方策検討

- ・ハード対策(堤防・道路・港湾整備、耐震対策)
- ・ソフト対策(避難体制、防災意識、防災教育)

3-2. 防災減災力の向上

- ・インフラ整備、耐震対策の優先度評価
- ・企業BCP、地域連携BCPの策定
- ・防災減災まちづくりの推進